（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ま～ぶる・び～と			
○保護者評価実施期間	2026/1/13	～	2026/1/28	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	47	（回答者数）	37
○従業者評価実施期間	2026/1/22	～	2026/1/28	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026/2/2			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士・保育士を常勤・専従配置し、療育・支援に関わっている。	昨年は、医療機関からの問い合わせが数件あり、療育に繋がるケースもあった。保護者様の了承をいただきながら医療機関と密に連携が図れる支援を行っている。	サービスの質の向上が重要と考える。各個人の能力だけでなく、チームで活動することを意識できるように担当の複数性や早期変更等も検討し、全体で看ることができるように体制を整える。
2	相談支援専門員の資格を有するスタッフ及び相談支援専門員研修を受けたスタッフ、児童発達支援管理責任者研修もさら１名受講し、多角的な視点で保護者様にアドバイス等ができる。	特に本年度は北部アーチル様との連携が強くなったと感じている。体験見学からつながった後の経過等も保護者様了承の上、情報の共有化を図り、次のステップにつながるように支援を行っている。	交渉等に関わるスタッフが複数名必要と考える。児発管だけではなく、他のスタッフが行政や保健師等と連絡・調整・交渉ができるように指導をおこなう。これにより、不在時の対応もタイムラグなく可能となり、早期に進めていくことが可能となる。
3	仙台市のみならず、他の自治体地域においても支援を提供しているため、多くの相談支援専門員様とのやり取り、アドバイス、情報の共有と提供ができること。	繋ぐことが重要であり、弊社だけの単独では完了しないことが基本と考えている。今期も遠方の利用者様を生活圏に近い児童発達支援センターに繋ぐことができた。行政や相談支援事業所等との連携を取り、できない理由ではなく、できるために活動に取り組んでいる。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報量の不足による連携	インターネット等により情報収集は行っているが、自分たちの提供しているサービス以外での相談事が入った場合に、対処できないことが露呈した。関係機関等に相談しても結局解決するまでに至らず、時間だけが経過してしまった。	全く持って自立支援協議会の開催案内が来なくなった。また、情報収集しても検索もできず、機能しているのだろうかと思う。どこに相談すればよいかわかりやすくなる仕組みつくりを地域と一緒にやっていきたい。
2	保護者様との距離感と相談体制の告知	アンケートにあった（保護者会）等の開催やペアレントトレーニング・きょうだい児支援に関し、弊社としてやっていない訳ではなく、必要性を事業所と保護者様の間での差異が有ると考える。相談体制もスタッフが忙しそうに見えるようですので、気軽に相談できる状態を検討します。	今後は、実行したことの情報発信を行います。同時に情報提供に関し、ホームページやインスタグラム等を活用し、保護者様にわかりやすく伝えます。
3			